

# 案件事例(2-3)

## 事業再生支援－為替デリバティブへの精算金融資対応事例－

### 【案件概要】

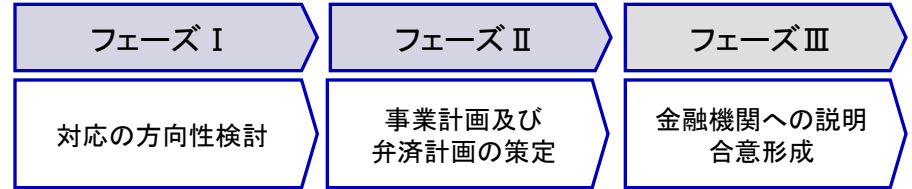
#### 1. 会社概要

事業内容： 機械部品輸入商社  
 事業規模： 売上高 約1,500百万円

#### 2. 会社様のニーズ・課題

- (1)円高による為替デリバティブ差損により資金繰り悪化。  
 レート次第で半年以内に資金ショートの可能性有  
 ※本業は損益・収支とも黒字
- (2)上記に対応すべく、為替デリバティブの解約及び精算金融資  
 実行を含めたリスクスケジュールに対する合意形成の必要性有
- (3)デリバティブ契約行、非契約行等立場が異なる7行の  
 取引機関が存在し、意見調整が難航する可能性あり

### 【役務提供内容】



- ・為替レート別シミュレーションの実施  
 為替デリバティブ損失をレート別にシミュレーション。各ケース毎に解約せずに資金繰りが維持できるか、具体的数値に基づき検討・検証。
- ・事業計画および弁済計画の策定  
 レート変動による業績変動及び資金繰り悪化リスクの極小化をコンセプトに計画を策定。
- ・全金融機関への説明  
 事業計画及び弁済計画をもとに、全行説明(弊社同行・説明支援)を実施。計画合意まで、粘り強いサポートを実施。

### 【本件のポイント】

#### デリバティブ損失シミュレーション(1\$=80円の場合)

| No | 銀行名 | 条件                     | 行使(1回当たり)                      | 1year<br>年計 | 2year<br>年計 | 3year<br>年計 | 4year<br>年計 | 5year<br>年計 | 6year<br>年計 | 損失累計    |
|----|-----|------------------------|--------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|
| 1  | A銀行 | < 97.25\$              | 108.25\$×14万\$                 | -47         | -47         | 0           | 0           | 0           | 0           | 95      |
| 2  | B銀行 | < 97.20\$              | 97.20\$×14万\$                  | 5           | 0           | 0           | 0           | 0           | 0           | 5       |
| 3  | A銀行 | < 96.51\$              | 96.51\$×14万\$                  | 28          | 12          | 0           | 0           | 0           | 0           | 39      |
| 4  | C銀行 | <102.30\$              | 107.30\$×21万\$                 | 17          | 0           | 0           | 0           | 0           | 0           | 17      |
| 5  | D銀行 | <104.90\$              | 112.05\$×6万\$                  | -6          | 0           | 0           | 0           | 0           | 0           | 6       |
| 6  | D銀行 | <105.52\$              | 105.50\$×6万\$                  | 5           | 0           | 0           | 0           | 0           | 0           | 5       |
| 7  | B銀行 | 前半4.5年<br>後半4.5年       | 92.90\$×3万\$<br>92.90\$×10万\$  | 5<br>0      | 1<br>12     | 0<br>15     | 0<br>15     | 0<br>15     | 0<br>12     | 6<br>70 |
| 8  | B銀行 | <101.01\$              | 111.15\$×15万\$                 | 37          | 56          | 56          | 5           | 0           | 0           | 154     |
| 9  | A銀行 | < 99.38\$              | 109.38\$×10万\$                 | 0           | 12          | 18          | 3           | 0           | 0           | 32      |
| 10 | C銀行 | < 88.50\$<br>> 88.50\$ | 93.50\$×20万\$<br>78.50\$×10万\$ | 8<br>0      | 11<br>0     | 11<br>0     | 11<br>0     | 3<br>0      | 0<br>0      | 43<br>0 |
| 合計 |     |                        |                                | 158         | 150         | 100         | 34          | 18          | 12          | 472     |

・今後6年間で5億円程度の負担発生可能性  
 ・一方、解約には、巨額の違約金が必要、かつ債務超過転落懸念も有。

### 【成果・効果】

- ・会社様及び金融機関がWIN - WINとなる成果を得、合意獲得に至った。

#### 財務・事業 メリット

1. 弁済計画が合意に至り、本業に注力できる環境が整った  
 (レート変動、及び資金繰りへの不安がなくなった)
2. 5億を超えるデリバティブ解約精算金を新規調達(精算金融資)により確保し、事業継続に必要な資金繰りを維持することができた)
3. 将来計画が明確化したことにより、取り組むべき課題及び目標が明確になった

#### 金融機関 折衝における メリット

1. 金融機関の視点を踏まえた資料を迅速に提出したことで支店⇄本部間のやり取りが円滑に進行
2. 第三者(コンサル)が関わることで、計画の実現可能性、公平性が客観的に数値で示され、納得感が高まった。

### 対応策の骨子

1. 事務所移転等固定費削減を含んだ損益計画の策定
2. 為替レート変動による資金繰り悪化リスクを回避するため、解約清算金と同額の融資を受け、解約を実行。
3. 債務超過転落懸念は、海外現地法人との連結計画策定により払拭。
4. 非デリバ契約銀行含めた全行合意に向け、公平性の高い計画の提示と粘り強い説明を実施